

はちおうじ 八王子遺跡

所在地 瀬戸市八王子町
 調査理由 東海環状自動車道建設
 調査期間 平成12年1月～3月
 調査面積 1,500 m²
 担当者 北村和宏・小澤一弘・織部匡久



調査地点 (1/2.5万「猿投山」)

調査の経過 八王子遺跡は瀬戸市八王子町に所在する縄文時代を中心とする複合遺跡で、調査は東海環状自動車道建設のため愛知県教育委員会を通じ委託を受け、平成10年度より調査が実施され、本年度は平成12年1月～3月にかけてABCの3調査区1,500 m²の調査を実施した。

立地と環境 瀬戸市には東部山地を水源とする4つの河川、北から蛇ヶ洞川、水野川、瀬戸川、矢田川があり八王子遺跡は矢田川の支流赤津川流域にあり、赤津川左岸に形成された、標高200 m前後の河岸段丘上に立地している。八王子遺跡の東約500 mには縄文時代と中世の複合遺跡白坂雲興寺遺跡が所在する。

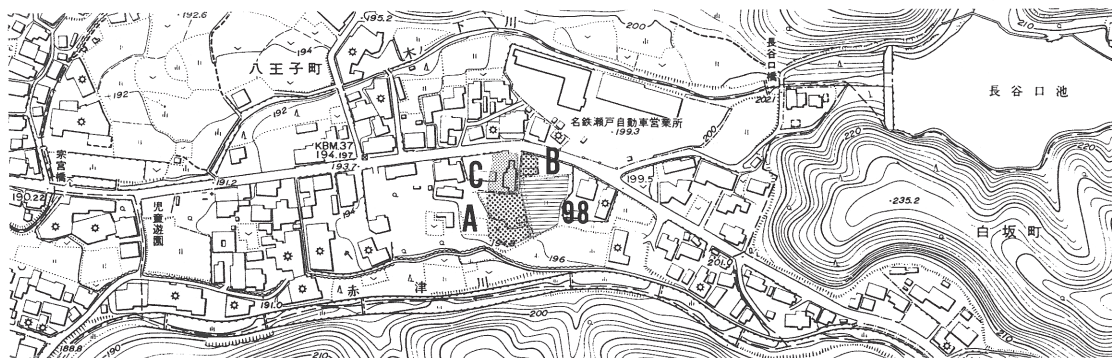
調査の概要 調査は、昨年度の調査区の西側をA区、北側をB区、北西側をC区として、3調査区で実施した。

A区では調査区の南側で現水田下の灰褐色層より近世の水田跡、中世の溝と土坑を検出した。暗褐色層と黒褐色層は縄文時代早期を中心とする遺物包含層で調査区の中ほどから北側に厚く堆積し、調査区南西側の斜面からは多量の土器片が出土した。調査区北西側では弥生時代の炉跡1ヶ所を検出した。調査区北側は花崗岩の礫群が帯状にひろがっていた。

B区は北側部分がすでに削平され地山が露呈していた。南西部分が緩やかに傾斜し、傾斜部分には暗褐色層、黒褐色層の遺物包含層が厚く堆積していた。南側では昨年度調査の竪穴状土坑1基の北側未調査部分を調査した。

3調査区からは早期後半の貝殻条痕文系土器が多く出土している。押型文土器と茅山下層式土器がA区より出土している。押型文土器(第2図)は格子目文(第2図1)と、山形文(第2図2～7)がベース面直上の黒色粗砂層より出土した。茅山下層式土器(第3図)は自然の傾斜に添って、底部を東に、西に倒れた状態で出土したもので、口縁と胴部半分が欠損している。胴上部に一段の屈曲部をもつ平底の深鉢で、胎土には繊維が含まれている。器面は胴部上半部に縄文が下半部に貝殻条痕が施され、文様は段から口縁にかけ凹線で円形文・流水文が描かれ刺突列も施されている。平底の底部には縄文痕が付いている。

(小澤一弘)



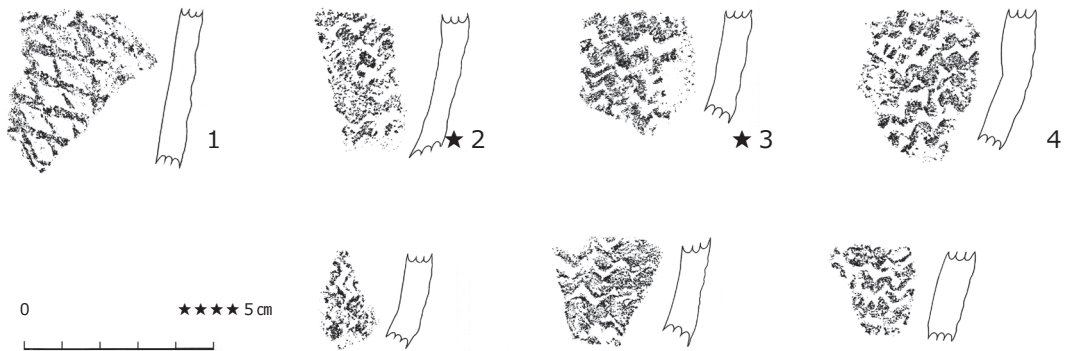
第1図 調査区位置図



A区 全景 (北より)



茅山下層式土器出土状態



第2図 押型文土器拓影 (1 : 2)



第3図 茅山下層式土器拓影 (1 : 3)